

ヒトとアンドロイドを分かつものとは？

—ブレードランナー—

03

西澤 格 (日立製作所)

紹介する映画

「ブレードランナー (Blade Runner)」は 1982 年に公開されたワーナー・ブラザース配給の SF 映画である。監督はリドリー・スコット (Sir Ridley Scott)、主演はハリソン・フォード (Harrison Ford) で、近未来の地球での人間とアンドロイドのさまざまなかわりが描かれている。本作品はストーリーが複雑に重ね合わされており、明確な解釈が示されていない多くの謎が残されていることに加えて、複数のバージョンが存在しそれぞれの内容が微妙に異なることから、映画の解釈を巡る議論が戦わされ、熱狂的なファンも多い。筆者も本稿の執筆にあたり、1982 年のオリジナル劇場版、同年のインターナショナル劇場版、そして 1992 年にリドリー・スコットが自身の意図通り編集したディレクターズカット最終版の 3 つのバージョンを見直すとともに、1968 年にフィリップ・K・ディック (Philip K. Dick) によって執筆された原作「アンドロイドは電気羊の夢を見るか？」^{☆1}にも再度目を通した。しかしながら、筆者の間違いや読者との見解の相違などもあると思う。その点をご容赦いただきたい。

映画のストーリー

本作品の舞台はロサンゼルス^{☆2}、設定されている時代は 2019 年 11 月である。21 世紀の初めにタイレル社が遺伝子工学により開発したレプリカント^{☆3}は、地球外植民地での奴隷労働に従事させられていた。物語は、2 週間前に植民地で 6 人のレプリカントが 23 人の人間を殺して地球に逃亡したとの連絡を受けた元ブレードランナー^{☆4}リック・デッカード (ハリソン・フォード) が呼び出しを受けるところから始まる。レプリカントはすでに 1 人が処分されており、デッカードは残りの 5 人

を処分せよとの命令を受ける。レプリカントのリーダーは戦闘モデルのロイ・バットィ (ルトガー・ハウアー, Rutger Hauer)。バットィとその仲間



『ブレードランナー』
＜数量限定生産＞ファイナル・カット ブルーレイ版 FR4ME＜フレーム＞仕様 ボリ
ススピナー付き (2 枚組) ¥5,980 + 税
ワーナー・ブラザース・ホームエンター
テイメント

は、自身の寿命が尽きかけようとして、寿命を延ばすためにレプリカントの製造にかかわったエンジニアを尋ね歩く。巧みな策略により、バットィは最終的にタイレル社の社長であり、かつレプリカントの設計者でもあるタイレル博士と会うことに成功する。しかしながら、寿命を延ばすことは不可能とタイレル博士から告げられ、タイレル博士を殺害してしまう。デッカードは苦しみながらも 1 人ずつレプリカントの処分を進めたが、バットィには逆に屋上に追い詰められてしまう。デッカードは、ビルから落ちる直前でバットィに助けられ、その直後にバットィの寿命が尽きてデッカードの任務は完了する。

作品と現実の科学技術の比較

先に述べた通り、本作で設定されている時代は 2019 年 11 月であり、本稿執筆時の約 4 年後にあたる。これからの 4 年間でどの程度技術が進化するかは現時点では分からないが、本作に描かれている技術と

☆1 フィリップ・K・ディック：アンドロイドは電気羊の夢を見るか？、原題 "Do Androids Dream of Electric Sheep?", 早川書房, ISBN-10: 4150102295 (1977)。

☆2 原作の舞台はディックが幼少時に住んでいたことがあるサンフランシスコであり、映画の設定とは異なる。

☆3 人型のアンドロイドのこと。原作ではレプリカントという言葉は使われていない。

☆4 賞金稼ぎ (バウンティ・ハンター) のこと。原作ではブレードランナーという言葉は使われていない。

現時点での科学技術の水準を比べてみる。今回は比較の対象として、本作品のメインテーマであるレプリカント（アンドロイド）に加えて、宇宙開発、自動車の計3つを取り上げる^{☆5}。

レプリカントに関しては、作品に登場するのは2016年製のNexus 6型で、その肉体は人間よりも優れており、頭脳も開発した技術者と同等と説明されている^{☆6}。人間との違いは、他の生き物に感情移入できない点^{☆7}、4年の寿命が設定されている点である。近年ロボットの研究開発が急速に進んでいるが、人間と区別が難しくかつ肉体的に人間より優れているアンドロイドは、筆者の知る限り存在しない。一方頭脳面では、質問応答システム・意思決定支援システム Watson が2011年2月に米国のクイズ番組 Jeopardy! で2名のクイズ王に勝利し、日本でも国立情報学研究所が中心となって2011年に始まったプロジェクト「ロボットは東大に入れるか?」で、2021年にロボットでの東大入試突破を目標にするなど、人工知能の研究が急速に進んでいる。しかしながらそれでも、2016年に本作で示されたレベルの頭脳を持つレプリカントが完成するのは難しいと感じる。

次に宇宙開発の状況に関しては、本作では2019年には地球環境の悪化により人類の大半は宇宙に移住していることとなっている。また、原作にはレプリカントの製造工場は火星にあると書かれている。2015年現在、地球外への具体的な移住計画は一般には公開されておらず、2019年に人類の大半が移住しているとは考えにくい。



『ブレードランナー』より
The pyramids of the Tyrell Corp in the foreground as Deckard's (Harrison Ford) spinner arrives in the Warner Home Video DVD release of Blade Runner : The Final Cut.

最後に自動車に関しては、作品中でデッカーが利用しているのはスピナーと呼ばれる空を飛ぶ自動車である。本作ではスピナーの、市街地の走行、垂直離着陸とホバリング、高度をとった高速移動シーンが含まれている。垂直に浮上し滑らかに空中を走る様子からは、筆者にはエンジンを利用した現代の垂直離着陸機を超えた技術^{☆8}が含まれているように感じられる。もしそうであれば、2019年に開発されているとは考えにくい。

残された謎

今回は紙面の都合で、レプリカントが地球に来た本当の理由、バットーが最後になってデッカーを助けた理由、タイレル社の社長秘書でレプリカントであるレイチェルとデッカーの関係、デッカーとレイチェルはどこにいてどうなったのか、誰が人間で誰がレプリカントなのか、映画のバージョンによって異なるユニコーンのエピソードは何を暗示しているのか、そして人間とレプリカントの本質的な違いはどこにあるのかなどのいくつかの項目の説明を割愛せざるを得なかった。本稿に興味を持っていただけたら、ぜひ映画をご覧いただくとともに、原作にも目を通していただけると幸いである。

(2015年5月7日受付)

☆5 本作にはほかに、デッカーが捜査に用いる音声認識と画像処理を組み合わせた分析ツール、タイレル社の超巨大高層ビルなど、多くの技術が含まれている。

☆6 原作には、「2兆個の構成素子を備え脳活動の組み合わせの範囲は1千万種類に及ぶ。この脳を備えたアンドロイドは0.45秒で14種類の基本反応態度のいずれかに入ることができる」と書かれている。

☆7 本作品ではこの相違点を利用し、「牛革の財布」、「蝶の標本」などの感情を刺激する質問に対して瞳孔の反応を測定するレプリカントの識別テスト「フォクト・カンブテスト（VKテスト）」が用いられている。

☆8 たとえば、重力を制御する技術。

西澤 格（正会員） | itaru.nishizawa.cw@hitachi.com

東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（1996）、博士（工学）、日立製作所中央研究所、米 Stanford 大学客員研究員を経て、2015年より日立製作所東京社会イノベーション協創センタ顧客協創プロジェクトリーダー主任研究員。